

# 防災研究所重点課題ワークショップのプログラム

日時: 2013年10月31日(木) 13:00~17:15

場所: 化学研究所共同研究棟 大セミナー室

- 目的: 今年のワークショップでは, 1) 防災研における具体的な研究課題, 2) 日本の他機関を含めた研究課題, 3) 海外との共同研究としての課題について, 現状はどうなっており, 今後10年間の方針等に関連する話題提供をして頂き, また, それに関する議論を通して防災研究所重点課題に関する共通認識を共有することが目的です.
- プログラム:
- 課題: 「西日本大震災」13:05~14:20
  - 発表者: 宮澤理稔 准教授
  - 題目: 「南海トラフ大地震に関する地震研究とその課題」
  - 発表者: 松島信一 准教授
  - 題目: 西日本大震災に備えた強震動予測・被害予測研究と国際共同研究の将来像
  - 発表者: 釜井俊孝 教授
  - 題目: 西日本大震災に備える地盤災害の研究
- 課題「極端気象」14:20~15:10
  - 発表者: 中北英一 教授
  - 題目: 極端気象に関する防災研・国内研究機関との共同研究
  - 発表者: 向川 均 教授
  - 題目: 地球温暖化と異常気象に関する研究動向
- 課題「国際防災実践」15:20~16:10
  - 発表者: 横松宗太 准教授
  - 題目: 研究所と研究者による国際ネットワークと地域での役割: 中堅研究者の視点から
  - 発表者: 宮本 匠 特定研究員
  - 題目: 海外の災害復興と国際支援の課題について

各課題の講演は、関連研究を網羅したものではありません。発表者の専門分野を講演して頂いたもので、取り上げられていない重要事象があります。たとえば、「西日本大震災」では、津波、河川、複合災害等です。

# 防災研究所重点課題ワークショップ 発表・総合討論のまとめ

日時:2013年10月31日(木)13:00~17:15

場所:化学研究所共同研究棟 大セミナー室

## ■ 課題:「西日本大震災」

- 地震ハザード評価改良への貢献
- 被害予測用震源モデルの確立
- 被害予測用地下構造モデルの確立
- 被害予測用建物応答モデルの確立
- 地盤災害の研究 一都市から山地まで一
  - Q 南海トラフ地震の発生確率が60~70%以外のものを発表することをどう思うか?
  - A 色々な考えがあるが、科学の立場としてはどのような意味を持った数値であるかを示しながら公表するほうがよいと考える
  - Q 斜面災害の発生場の地形的特徴から、地形データから危険地域を前もって予測できないか?
  - A ある種のものには出来るが、マンパワーが必要となる。また、地形だけではできず、地質分布から判断する必要のあるものもある。

## ■ 課題「極端気象」

- 極端気象の基礎観測と予測
- 分野横断的な気候変動影響評価
- 再アンサンブル予報
- 数値予報モデル、データ同化や、アンサンブル予測手法の高度化
- 領域(ダウンスケーリング等)再解析データセットの作成と解析
- 各種データの集約 or データへのアクセスリンクの整備
  - Q 観測はどのようにいされるか?
  - A 豪雨発生自体がわからないのでそのような発生を観測する。その結果を使えば後の降雨予測に使える。
  - Q 気象予測がしやすい、しにくい温暖化予測結果にも同様か?
  - A そのとおりです。また温暖化予測結果がほとんどモデルと同じであっても、実際の観測値と合致するとは限らない。

## ■ 課題「国際防災実践」

- 復興の「概念・時間的・空間的拡大」を前提とした日本の災害復興事例の国際発信
- 協働的実践のネットワーク、若手研究者の実践的フィールドワーク
- 萌芽的研究の世界的拠点、挑戦のリスクのプール機能
- 民間企業や地域コミュニティと研究所の相互のインターン
- 世界の知識ネットワークのリワイヤリング、橋渡し型ソーシャル・キャピタル
- 情報交換のための「弱い紐帯」と、技術普及のための「強い紐帯」のベストミックス
- ネットワーク・コンポーネントのClosure、ネットワークの「構造の穴」へのbridgingの仕組み
  - Q 研究興味と国際貢献をどうバランスさせるか？
  - A 海外研究者との共著論文をかけるので、満足できる。
  - Q ブリッジの減衰をなくす方法は？
  - A 例えば、国際会議に対しては効率化を図る、国際会議持つことによって得するというモチベーションを持ってもらう。
  - Q 台湾での過疎地でのグリーンツーリズムによる復興は成功か？
  - A 外に出ていった若い人たちが戻ってきた。しかし、地元での過当競争により事業がうまくいかず、再び出て行く若者もおおい。

## ■ 全体を通した議論

- 国内での観測研究など、興味を持つ諸外国の研究機関と地道に輪を広げる
- 所内での情報共有は進んでいる
- 今後10年の持続可能目標(SDG: sustainable development goals) (2015年)の中に災害の課題を入れていくという大事な時期、世界的な動きを見つつ防災研の活動、国際プロジェクトへの貢献
- 広く国民向けへの研究発信はどうすればよいか？
  - マスコミ等の情報発信能力の高いメディアを利用する。
  - 研究プロジェクト(1, 2)に入ってもらうことも一手である。研究づくりのはじめ・中途からかわってもら
- 国外の研究者との共著論文を書く

